

(1) 第484号

出雲北陵月報

No. 484

令和7年12月24日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷



挑戦する人が未来をつくる

進学指導部長 中澤 悟

2025年も残りわずかとなりました。今年度も多くの3年生が進路を決定し、次のステージへ向けて歩み始めています。進学や就職という選択を終えた皆さんは、残りの高校生活を悔いなく過ごし、学びや仲間との時間を大切にしてください。一方で、大学入学共通テストや一般入試に挑む皆さんは、ここからが正念場です。体調管理を徹底し、最後まで自分を信じて挑戦してください。

進学指導部長として、皆さんに伝えたいことがあります。

それは「挑戦する人が未来をつくる」ということです。

社会は今、AIやデジタル技術の進化、環境問題、国際情勢の変化など、かつてないスピードで動いています。生成AIが文章を書き、ロボットが働く時代に、人間に求められるのは「考える力」「問い合わせ立てる力」「挑戦する勇気」です。進学はゴールではなく、未来を創るために、自己挑戦を恐れない勇気を持とう。

●
写真部
第53回島根県高校写真展審査会
2年ぶり17回目の全国高校総合文化祭出品決定!

時 12月11日

於 松江工業高校



「晩餐」水口笑奈

てください。軸がある人は困難に直面してもぶれず、挑戦を続けることができます。社会は「正解のない問い」にあふれています。だからこそ、自分の価値観や目標をしっかりと持ち、学び続ける姿勢を忘れないでください。

の中から5点「全国推薦作品」として選ばれることになる。
2年生の水口笑奈(23年)
の作品「晩餐」が全国推薦作品に選ばれ、全国高校総合文化祭への出品資格を得た。

【金賞】
「母に連れられて」 本田 陽(3-1斐西)
「蜘蛛の糸」 馬庭葵琳(3-4浜山)
【銀賞】
「片道きつぶ」 森脇結雅(1-1)
「ふわふわ」 福島 和(3-3)
【優秀賞】
「泡に込めた想い」 安食有紗(1-3)
「光雨」 勝部紫帆(2-5平田)
「見えない優しさ」 顧問 村上 学
【見事賞】
「興味津々」 馬庭葵琳(3-4浜山)
【佳作賞】
「晚餐」 水口笑奈

最後に、皆さんに大切にして欲しいことが三つあります。
・挑戦を恐れず、一歩を踏み出す勇気を持つこと。
・失敗を学びに変え、次に生かす力を持つこと。
・自分の選んだ道に誇りを持つこと。

未来は、皆さんの挑戦から始まります。出雲北陵生として、自信を持つて一步を踏み出してください。皆さんの未来は、明るく、可能性に満ちています。ただ、それを実現するのは、皆さん自身の行動と努力です。社会がどんなに変化しても、自分の力で道を切り開くことができます。出雲北陵生としての誇りを胸に、力強く羽ばたいてください。

人とのつながりを大切にしよう
どんどんに技術が進んでも、最後に頼れるのは人です。挨拶や礼儀を大切にし、信頼を築く力を身につけてください。異なる価値観を受け入れ、協力できる人こそ、これから時代に必要です。進学先では、グループワークやプロジェクトで「協働する力」が問われます。高校生活の残り時間で、仲間と協力する経験を積んでください。
自分の軸を持とう
変化の中で流されないために、自分が何をするのかを明確にし

本校からは19点出品し、3点が金賞、6点が銀賞という結果であった。金賞

美術部

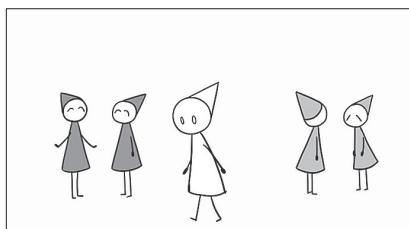
7年連続19回目となる
全国高校総合文化祭出品決定！



「逃亡」定守古都乃

県内37校から335点の応募があり、本校からは24点が入選した。そのうち定守古都乃(26歳)の絵画作品「逃亡」と加納珠莉(26歳)の映像作品「color」が来年度の全国高校総合文化祭への推薦作品枠7点に選出された。

(顧問
石倉
正)



「color」加納珠莉

美術・CGデザインコース

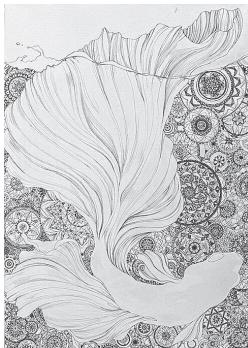
時 時 12月2日 於 本 校 美 術 棟

学校開放美術講座



素描講座の様子

時
11
月
30
日



「婉然の自紹」 上田潤南

上田潤南(3-6
湖北)
藤原小雪(3-6
出一)
布野陽菜佳(3-6
松一)
県外審査員特別賞
イラスト・造形部門奨励賞
イラスト・造形部門奨励賞

第58回島根県総合美術展（県展）

第58回島根県総合美術展（県展）

時
11月
15日
口美術展（県展）
23日



信を持って表現する力や、仲間と一つの作品を創り上げる協調性の伸長を感じられた。また、特別講演として高須賀氏による即興ダンスを鑑賞した。音楽や空間に合わせて自由に身体を動かす姿から、表現することの楽しさや可能性を実感する貴重な機会となつた。

今回の発表テーマは「JKライフ」で、チアをイメージした明るくエッジーあふれる構成の作品を発表した。日々の練習を重ねる中で、振り付けの完成度だけでなく、表情や動きの一つ一つに気を配りながら、観る人楽しませることを意識してきた。

第50回島根県高体連ダンス発表会

なぎなた部

島根権高等学校なぎなた新人大会

於時
本校
黎明館
12月
14日

吹奏樂部

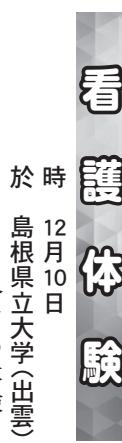
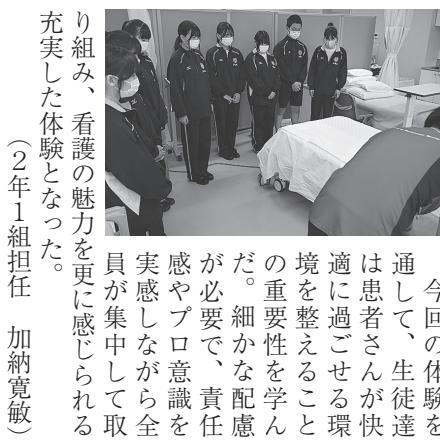
個人は女子が上位3名、男子は上位2名、団体は本校が3月に兵庫県で行われる全国選抜へ出場。大会へ向け今後も稽古に励みたい。

第49回全日本アンサンブルコンテスト県大会

本校は木管5重奏とサクソフォン4重奏の2チームが参加した。本番では美しい音色で素晴らしい演奏を披露し会場を魅了した。結果、両チームとも金賞を受賞し、島根県代表として2月にとりぎん文化会館梨花ホールで行われる中国大会への出場権を獲得した。中国大会では、更に質の高い演奏ができるよう精進していきたい。

木管五重奏曲 金賞・県代表
木管五重奏曲O.p. 56-1

(3) 第484号



高校2年生普通コースの保育系列選択者が、出雲市内の認定こども園で保育実習を行った。園内ではクラスごとに歌やダンス、クッキング、工作などの活動を行った他、園庭では寒さにも負けず、鬼ごっこなどの運動遊びを行った。また、絵本の読み聞かせや初めておむつ交換を行った生徒もあり、貴重な体験となつた。

先生方のご指導のもと、子ども達への言葉かけ接し方など、多くのことを学ばせていただいた。お世話になつた認定こども園の皆様に、お礼を申し上げます。

読み聞かせや初めておむつ交換を行つた生徒もあり、貴重な体験となつた。

先生方のご指導のもと、子ども達へ

の言葉かけ接し方など、多くのことを

学ばせていただいた。お世話になつた認定こども園の皆様に、お礼を申し

あげます。

読み聞かせや初めておむつ交換を行つた生徒もあり、貴重な体験となつた。

先生方のご指導のもと、子ども達へ

の言葉かけ接し方など、多くのことを

学ばせていただいた。お世話になつた認定こども園の皆様に、お礼を申し

あげます。

(2年1組担任

加納寛敏)

保育実習

時 12月3日

高校2年生普通コースの保育系列選択者が、出雲市内の認定こども園で保育実習を行つた。

園内ではクラスごとに歌やダンス、クッキン

グ、工作などの活動を行つた他、園庭では

寒さにも負けず、鬼ご

っこなどの運動遊びを行つた。また、絵本の

読み聞かせや初めておむつ交換を行つた生徒もあり、貴重な体験となつた。

先生方のご指導のもと、子ども達へ

の言葉かけ接し方など、多くのことを

学ばせていただいた。お世話になつた認定こども園の皆様に、お礼を申し

あげます。

進学状況（12月13日現在）

北陵生健闘中！

今年度高校3年生は健闘を続け、次々と志望校への切符を手にしている。

今後大学入学共通テストに向けて最後の追い込みを行い、更なる成果を挙げてくれるものと期待している。合格者

の多くに共通しているのは、志望校への熱い思いを持ち、地道な努力を重ね、充実した高校生活を送つていてることである。後輩の皆さんも後に続いて欲しい。

【国公立大学・短期大学】

島根大学・島根県立大学・山口県立大

学・山陽小野田市立山口東京理科大学

島根県立大学短期大学部・大分県立芸術文化短期大学

【私立大学】

近畿大学・京都精華大学・阪南大学・

関西外国语大学・中京大学・広島修道

大学・広島文化学園大学・安田女子大

学・川崎医療福祉大学・就実大学・くらしき作陽大学・広島国際大学・広島

経済大学など

就職状況

於 島根県立大学(出雲)
時 12月10日
今 今回の体験を通じて、生徒達は患者さんが快適に過ごせる環境を整えることの重要性を学んだ。細かな配慮が必要で、責任感やプロ意識を実感しながら全員が集中して取り組み、看護の魅力を更に感じられる充実した体験となつた。

高校3年生は2年次から準備を重ね、就職に向けて努力し続けてきた。9月16日から就職試験が開始され、本校生徒が企業からの内定をいただいている。

【県外】株式会社にしけい、陸上自衛隊雲村田製作所(5名)、株式会社出雲技研、株式会社出雲、株式会社共立フレーズサービス、三愛石(2年1組担任 加納寛敏)

油有限会社、株式会社ジエイ・エム・エス出雲工場(3名)、株式会社ダイハツメタル出雲工場(2名)、株式会社ひかり、共立メンテナンス(2名)、島根県農業協同組合出雲地区本部、島根中央信用金庫、タイガー産業株式会社、出雲ロイヤルホテル、ナカバヤシファクトリー株式会社(3名)、有限会社ナンバ・サーティワン

演奏会のお知らせ♪

出雲北陵中学・高等学校合唱部 ウィンターコンサート

日 時 12月27日(土)

場所 18時開場 18時30分開演
ビッグホール出雲白のホール

入場料 無料

フィンランド交換留学生来校

12月8日・9日

日に、フィンランドのカラヨキ市から中学生3名が来校しました。来校したのは、ラウマンカリ総合学校中学校2年生のファンニ・ポウハリ

サン、メレンオサ・サ・サリさんとミンタ・ムストネンさん。ホストファミリーを務めているのは本校1年4組の大野庫ノ助

ーを務めているのは本校1年4組の小松原蒼空(斐東)、三島真音

(出一)、小島真音(出二)で、3名は今夏出雲市の相互派遣交流事業でカラヨキ市を訪れている。



第2回 校外講師特別講座

時 11月27日
於 中高棟ホール
講師 須佐建央様
宮司 須佐神社



校外講師として、須佐神社宮司 須佐建央様をお招きし、「出雲神話と須佐神社」と題して講演会を開催した。まずは須佐神社に祀られている須佐之男命についての逸話をお話し下さいました。続いて、須佐之男命が祀られているその他の出雲の神社や、28年ぶりに執り行われた須佐神社の御遷宮について、出雲神話や風土記から豊かな歴史を語ってくださいました。最後には生徒達から、須佐神社の敷地のつくりや祭典行事など、たくさんの質問に丁寧に答えていただき講座が盛り上がった。

講話を通じて、改めてふるさと出雲のことを知り、自慢できることをまた一つ知れて、出雲を誇りに思うことができた。

『気づいたら、税金がそばにあった』

白根 洋太(中3)
種)

中学3年生が国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が募集を行っている「税についての作文」へ出品をした。その結果、本校より5名の生徒が受賞した。そのうち、白根 洋太(中3)
種)が島根県知事賞を受賞。11月13日に授与式のため、県庁を訪問した。当日は県副知事石原恵利子様より表彰していただいた。県知事賞の受賞は9年ぶりとなる。日ごろの学習の成績が伸びていた、大変素晴らしい結果となつた。

中学3年生が国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が募集を行っている「税についての作文」へ出品をした。その結果、本校より5名の生徒が受賞した。そのうち、白根 洋太(中3)
種)が島根県知事賞を受賞。11月13日に授与式のため、県庁を訪問した。当日は県副知事石原恵利子様より表彰していただいた。県知事賞の受賞は9年ぶりとなる。日ごろの学習の成績が伸びていた、大変素晴らしい結果となつた。

税の作文

小学生だったある日、僕が住む町で、大きな工事が始まりました。通学路がしばらく通れなくなってしまった。「なんでわざわざ今やるんだろう?」と最初は少し不満に思っていました。でも、その工事が終わってから通つてみると、舗装がきれいになりました。夜にはLEDの街灯が照らしてくれました。その時母が「こうい

うのも税金でやつてるんだよ」と言いました。それを聞いて、僕はハッセンでした。今まで「税金=大人が払うお金」くらいにしか思っていました。でも、「あれもこれも税金?」と身の回りの景色が変わつて見えたのです。

図書館、公園、学校の教室や体育館。僕が何気なく使つてている施設やサービスの多くは、税金によつて支えられていると知り、驚きました。給食や教科書、先生たちのお給料までもが税金でまかねわれていると聞き、毎日当たり前のように受けっていた教育の重みを初めて感じました。また、町内で行われた防災訓練では、みずや保存食消火器の体験などが用意されていました。これらも税金によつて備えられてると知り、「もしものとき」への安心感が生まれました。災害が多い日本では、このような備えが命を守ることにつながります。安心して生活できることは、実は多くの支えがあつてこそなのだと気づきました。

税金は、私の生活を見えないところで支えてくれています。安全な道、教育、医療、災害への備え。どれも、社会全体で助け合う少子高齢化が進む中、税金の使い方はますます大切

になつています。一人ひとりが税に関心を持ち、自分ごととして考えていくことが必要だと思います。私たち中学生は、まだ税金を払う立場ではありません。でも、税金でつくれたものを大切に使うことや、正しい知識を持つことは今からできると思います。壊さないように使う。公共の場所をきれいにする。そんな行動が、税金を大切にすることにつながつていると思います。

将来、税金を納める立場になつたとき、「もったいない」と思うのではなく、「自分の税金が誰かの助けになつている」と感じられるような人になります。税金は、誰かの暮らしや未来を支える力にもなるのです。例えば、私が夢を実現するための進学先や学びの環境も、税金によつて支えられるかもしれません。そう考えると、税は自分の夢とも深く関わっているもとに気づきました。これからも、税金について知り、学び続け、自分の暮らしとのつながりを考えていこうと思います。そしていつか、納める立場になつたとき、誇りを持つて「社会の一員になつた」と思えるようになりたいです。

作品と研究

3年間を振り返つて
（後輩の皆さんへ）

失敗は成功のもと

- 授業はすべての基礎基本なので、授業に集中すべきであった。(欠点などは目につくこともなかつただろう)
- 小さなことからも仕事は順位にこだわって試験に臨むべきがよかつた。(試験勉強もや、授業に真剣に取り組め、点数も上がつていただろう)
- 授業の復習をしておくべきだった。(特に数学・英語は毎日じておけば、大学受験の基本はできていただろう)
- 定期試験の準備勉強は一週間以上前から毎日五時間以上するべきであつた。(英語・数学・国語だけでも2科目あるので見直すだけでもこれだけは必要でしろ足らないぐらいだと今は実感している)
- 一年生の時に毎日少しでも家庭で復習や自学をするべきであった。(その習慣ができていいれば志望校が合格圏内に入つていただけたり、暗記することだけが勉強ではないことに早く気付くべきであつた。(理解しなければ覚えて意味のない学習項目があり、理解したことは忘れにくくことに気づくことができる)
- 分からぬこと、難しいところは、YouTubeを活用すればよかつた。(プロがタダで教えてくれる)
- 進路について、一年の時から真剣に考えておけばよかつた。(自分に合った学校を見つけていたはずだ。また、決めてから勉強してみるは合わなかつた)。
- 就職を甘く見てはいけなかつた。(勉強だけなら大学のほうが入りやすいが、就職は、基礎基本の学力、人付き合いや気配りや言葉遣いや礼儀作法などのコミュニケーション能力、更にはその企業・業種への適性などあらゆる観点から選考され内定を得るのは難しいことを知つた)
- 試験前に勉強すれば何とかなる、という

第3節 部活

○もつと練習に真剣に取り組むべきだった。(個人の技術も、チームの結果も違つていったはずだ) (先生に言われてからや、おられる時だけ真剣にやつていたのでダメだった)

- 覚えたり、暗記することだけが勉強では
ないことに早く気付くべきであった。(理
解しなければ覚えても意味のない学習事
項があり、理解したことは忘れにくくこ
とに気づくことができる)
- 分からぬこと、難しいところは、
YouTubeを活用すればよかつた。(プロ
がタダで教えてくれる)
- 進路について、一年の時から真剣に考へ
ておけばよかつた。(自分に合った学校が
見つけられていたはずだ。また、決めて
から勉強しても間に合わなかつた。)
○就職を甘く見てはいけなかつた。(勉強だ

○ 数学・英語は毎日しておけば、大学受験の基本はできていただろう

○ 定期試験の準備勉強は一週間以上前から毎日五時間以上するべきであった。(英語・国語だけではなく2科目があるので見直すだけでもこれだけは必要でむしろ足らないぐらいだ今は実感している)

○ 一年生の時に毎日少しでも家庭で復習や自学をするべきであった。(その習慣ができていれば志望校が合格圏内に入つてい

第2節 学校生活

○ 考えは間違っていた。(授業に真剣に参加していないところは、自分でやろうと思つてもわからないことがほとんどであった。) 一日十分でもいいから、一年の時から家で勉強する習慣をつけておけばよかつた(勉強が楽しくできるようになつていていただろう。もちろん成績も、進路も今より数段良い方向に行つていただろう)

○もつと本を読んでおけばよかつた。(思つたことを言葉にでき、視野も広がつていた)

○一日一日を大切に過ごしておけばよかつた。(無駄に時間を浪費するだけで何も残らなかつた)

○一年生のころからオーブンキャンバスに受けばよかつた。(進路も明確になり、もつと勉強も部活も真剣に取り組むことができた)

○無駄遣いしすぎてしまつた。(浪費癖が付き、この先が自分で心配になつてくる)

○家事を手伝えればよかつた。(四月からは自分でしなければならない。どうしていいかわからないことが多い)

○趣味と呼べるようなものがないことに気づいた。(自分で心底楽しめるものを見つけたい)

○クラスの係の仕事や掃除、ボランティアなど積極的にしていればよかつた。(自分という人間を磨く機会であつたことに気付いた)

- 自分でもっと自分を追い込んで練習すればよかつた練習への意識が高くて、結果ももつとよかつただろう
- 自主練をもつと考えてやればよかつた。(ただやっているだけで、技術の向上が少なかつた)
- もっと勝ちにこだわって練習していたらよかつた。(練習の質が上がり戦績も向上しているだけだろう)
- 途中でやめなければよかつた。(結果はどうもかく、やり抜くことが大事だと分かった)
- 金賞にもつとこだわって練習すればよかつた。(個人練習がもつと充実したものになつたと思う。金賞ももらえた)
- 自主練を家でももつとやればよかつた。(もう終わってしまったので、戻れない)
- 2年半しかないのと、一生懸命すればよかつた。(必ずやつた分だけ成果が出る)
- チームの方針を理解して練習に取り組めばよかつた。(自分本位のプレーが多くなり、チーム全体の力が發揮できなかつたと思つ。結果ももつとよかつたと想つ)
- 部活に入ればよかつた。(仲間も増え、高校生活がもつと充実していた)



第26回植田正治写真美術館フォトコンテスト 『開館30周年記念賞』受賞作品

編集者からひと言
「後悔先に立たず」

- 遅くまで（スマホで）だらだら過ごさず、早寝早起きをすればよかつた。（まさに「三文の徳」であることが分かった）
- 時間をもつと有効に使えばよかつた。（時間管理がうまくできるようになり、一日が有意義に過ごせた）
- 規則正しい生活を送り、十分な睡眠をとつておけばよかつた。（授業中に寝て内容が分からなくなったり、不健康な生活にならなかつたはず）
- お金の使いみちをもつと考えればよかつた。（これからは自分で生活していくなければならない）
- 変な意地を張らずに自分を冷静に見つめ現状を自覚し、完璧主義にこだわらず色々なことに取り組むべきだった。（先生に言われた意味が実感できるようになつた）
- 理想は理想、現実は現実だった。（いろんな人がいていろんなことがあるから、何でも思い通りにいかないのがこの世の中。その中で、自分の努力、根性、忍耐でどうだけ理想に近づけるか、だ！ ただし、理想を捨て、あきらめるのは間違いだ）
- 自分の短所に向き合つてもっと改善すべきだった。（自分に自信が持てるようになるし、自分をやり前へ進むことができる）

今月の 1枚 「無心」

松村 菜牛 (3-3)